

V 金ケ崎町立幼稚園のあり方検討委員会について

金ケ崎町の就学前の子どもの教育・保育施設は、町立幼稚園4園と社会福祉法人が設置運営している保育所3園があります。

就学前の子どもの人数は、過去10カ年で120人程減少していますが、共働きや核家族化等の家庭環境の変化により、保育所に入園する子どもは増加しており、入園を待機しているお子さんがいる一方、幼稚園に入園する子どもは、年々減少している状況です。

このような状況から、各分野の皆様から意見をいただき、今後の町立幼稚園のあり方について検討するため、平成29年5月に「金ケ崎町立幼稚園のあり方検討委員会」を設置しました。

1 幼稚園の現在の取組

預り保育の実施	南方:7:30~9:00 14:00~19:00 六原・三ヶ尻・永岡:14:00~18:00
---------	--

2 保育所の待機児童解消に向けた現在の取組

待機児童が生じている原因は、定員を上回る需要があることのほか、保育士が不足しているため、お子さんを預ることが出来ない状況になっていることも原因となっています。そのため、町では次の取組を行っています。

①待機児童支援事業補助金の交付 ・認可外保育施設を利用した場合 施設利用料と町保育料との差額 ・町ファミリー・サポート・センターを利用した場合 利用料の半額	②子育て支援員研修の実施（10月予定）
	③保育士等人材バンクの開設 潜在的保育士の掘り起こし
	④企業内保育所による地域からの利用者 受入開始（10月予定）

3 金ケ崎町立幼稚園のあり方検討委員会について

委員(18名)

岩手県立大学准教授、町立幼稚園保護者、
北部・三ヶ尻・永岡・南方地区自治会連合会から推薦
された者、子育てサークル会長、町内保育所事業者、
町立幼稚園長・主任教諭、町立小学校長

協議事項

- ・園児数増員に向けた取組
- ・幼稚園における子育て支援策
- ・家庭環境等の変化に対応した幼稚園の施設機能のあり方

開催経過

第1回 5月8日 検討委員会設置の趣旨及び就学前の子どもの状況説明
委員からの意見（一部）

- ・保育と教育が一緒となって進める施策の検討をお願いしたい。
- ・第1子は幼稚園、第2子が保育所待機児童となっており、自身も切実な問題である。
- ・今は、教育と保育と分けて子どもを育てていこうという考えではない。平成30年度に改訂される幼稚園教育要領、保育所保育指針は、教育も保育も同じ内容となっている。預り保育等の条件を整備しても、子どもたちをどのように育てていこうという視点で考えていかないと今までと何も変わらない。

第2回 6月6日 ○岩手県子ども子育て支援課職員による講義

「就学前の子どもの教育・保育施設の概要等について」

○岩手県立大学人間福祉学科准教授進行によるグループ討議

「昔と今の子育て環境の変化について話そう」

委員からの意見（一部）

- ・方針に関すること 泥遊び、木登り等の遊びを通して、子どもたちが体験から覚える機会を増やす。
- ・規模に関すること 家庭では体験できないグループ、大人数での人との関わりができる環境整備が必要。

今後の開催予定

第3回 H29.7.6 第4回 H29.7.18

4 金ヶ崎町の就学前の子どもの状況について

金ヶ崎町の就学前の子ども 735 人が日中過ごしている場所

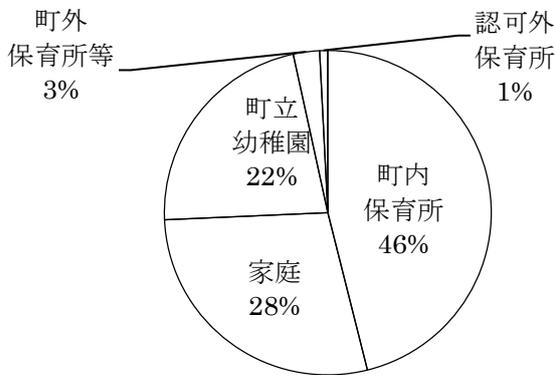
町立幼稚園(3~5歳児) H29.4 現在

幼稚園名	定員 (A)	園児数 (B)	入園率 (B÷A)
六原	80	28	35.0%
三ヶ尻	60	28	46.7%
永岡	100	19	19.0%
南方	180	89	49.4%
全体	420	164	39.0%

町内保育所(0~5歳児) H29.4 現在

保育所名	定員 (A)	園児数 (B)	入園率 (B÷A)
金ヶ崎	130	121	93%
たんぼぼ	130	130	100%
たいよう	90	103	114%
全体	350	354	101%

※町外在住の園児を含む全園児の数



区分	人数	割合
町立幼稚園	164人	22%
町内保育所	339人	46%
町外保育所・幼稚園	19人	3%
認可外保育所	6人	1%
家庭	207人	28%
全体	735人	100%

就学前の子どもの数と幼稚園児数・保育所園児数等の推移

各年4月現在(単位:人)

